

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : C-47</p>
<p>【学校名・氏名】 浜松開誠館中学校高等学校 高橋千広</p>	<p>【応募部門】</p>
<p>【修了研修名】 平成 30 年 第 2 回 校長研修</p>	<p>3. 地域とともにある学校実践部門</p>
<p>【活動名】 子どもたちが未来を求めて ～生徒とともに学び未来を拓く～</p>	
<p>解決すべき課題</p> <p>学校のビジョンが文字のみでぼやけていることは例年の課題であった。理由としては、生徒も教員も、言われたことをやっていたら良いという消極的な雰囲気があった。また、教員の意思統一が成されず、教育成果も上がらない状況がみられた。</p> <p>この課題を解決するために、生徒の自治で取り組んでいる気候危機について、その活動を教員が支援することで、生徒が地域の中の自分、国のなかの自分の役割に目覚め、社会貢献を考える機会としたい。また、生徒も教員も同じ課題に向かい、考え、行動することで、主体性を育むとともに、「徳育」を柱とする本校の教育、また教育目標である「愛情教育」を深く理解する機会としたいと考えた。生徒には主体性を発揮することで自信をつけさせ、教員には生徒の主体性を育むための支援方法を理解し、育む喜びを感じさせたいと考えた。そして、生徒、教職員の自信を高め一体となったチーム浜松開誠館を構築したいと考えた。</p>	
<p>目標・方針</p> <p>目標は生徒が主体となり、生徒たちの自治活動を成功させる。教員は生徒の主体性を育むためには支援が必要であることを理解し、やりきることで育む喜びを感じる。どのように支援したら、成功となるのか工夫を凝らす。</p> <p>生徒も教員も目標に向かい、お互いに挑戦をして、成功に達するプロセスの中で、互いに理解し学び、最終的には、それぞれの成長のなかにお互いに感謝する気持ちももてる活動にしたい。</p>	
<p>活動内容</p> <p>本校は「SDGs」活動を推進している。5 月より、気候危機について校長講話をしたり、G20 サミットコースに生徒が参加したりと活動を進めてきた。また、グローバルコースの授業においては、気候危機を中心に調べ学習を続けてきた。そのため気候危機について、生徒たちの興味関心は徐々に高まり、世界中で行われているグローバル気候マーチに、参加したいという願いを持ち始めていた。気温上昇による災害、熱中症による死亡者数の増大、生態系の異変、部活動における時間制限など、生徒たちは自分たちの生活が脅かされていることと同時に、日々ニュースで流れる台風による被災地の様子から弱者の苦しみ、悲しみを痛みと感じていた。「私たちに何ができるのか」を生徒会役員、グローバルコースの生徒を中心に話し合いが続いた。ある時、「9 月 20 日にグローバル気候マーチを行いたい。」という申し出が生徒会長をはじめとする生徒会役員、グローバルの生徒たちからあった。また、「臨時の生徒集会も開かせてください。」という申し出もあった。気候危機については、私自身も、未来を生きていく生徒たちこそが、考えなくてはいけないことであると考えた。何よりも生徒たちの主体性を重んじたいと考えた結果、活動の許可をした。この取り組みを通じて、生徒と教員の主体性と自信を育てたいと強く願った。</p> <p>生徒の自治による生徒集会では、中心となる生徒から「地球が危ない、私たちの未来を守らなくてはならない。」という熱い思いが全校生徒に語られた。生徒たちは、いつになく、真剣な目差しで聴いていた。集会終了後、職員室の前にいた男子生徒に、「今日の生徒集会はどうだった。」と聞くと、「今まで、気候危機についての講演や SDGs の話は、何回か聴いてきたけれど、難しいなあと思っていました。でも、今日の話はわかりやすく、僕も何かしなくてはいけないと感じました。」と答えた。生徒から生徒に伝えることは、こんなにも</p>	

<p>真っ直ぐに伝わり、響くことを改めて認識するとともに、生徒会が学内自治強化の機関として成長し、最上級生が下級生を引っ張っていく姿を見て生徒たちの大きな成長を感じた。</p> <p>生徒集会後、毎朝、生徒会、グローバルコースの生徒たちを中心に、参加募集の呼びかけとビラ配りが展開された。ビラも手描きで、毎日異なるビラを配り、子どもたちなりの想いが伝わってきた。</p> <p>この取り組みは、生徒たちが、5 月に見た新聞、スエーデンのグretaさんの記事の見出し「日本の若者怒れ」というものに起因する。自分たちと同世代のグretaさんが主体的に未来について考えて行動していることから、自分たちが消極的であるということを感じ、動き出すきっかけとなった。</p> <p>9 月 20 日、当日は約 400 名の生徒の参加となった。全校生徒数の約 3 分の 2 の参加であった。他校生徒、一般の方からも参加したいという希望もあった。今後の広がりが楽しみである。</p>
<p>活動内容</p> <p>気候危機について、生徒主体でマーチを実施した。浜松駅を出発し、街のメイン通りを歩き、最後は市役所の公園で、生徒代表が浜松市長鈴木康友様に提言書をお渡した。</p> <p>マーチでは、生徒たちがそれぞれに作った呼びかけのボードを持ち、大きな声で「Save the earth、Save the future」と呼びかけをして歩いた。実施の時間が 16 時からだったため、交通量も多く、車の中からも窓を開けて、「頑張つてよ。」という励ましのお言葉をいただいた。</p> <p>市役所の集合場所までは大きな声で呼びかけをしていた。しかし、市役所の集合場所では、整然とした形でマナー良く報告会ができた。練習をしたわけではないなかで、生徒自治でけじめよくできたことを観て、子どもたちの成長を嬉しく思うと同時に、自分たちが決めたことに対して責任を持ち挑んだ生徒を誇り思った。この気持ちは、参加した全教員が同じ思いであったに違いないと感じた。その証として、学校に戻った時、一人のネイティブの教員が「ありがとう、最初は興味を持たなかった先生方も、今日の生徒の姿を見て、みんな同じ気持ちになったと思う、嬉しい。」と満面の笑みで、私の手を握った。</p> <p>これこそが、生徒とともに学ぶということだと実感した。とても嬉しかった。</p>
<p>活動の成果</p> <p>生徒には主体性を発揮することで自信をつけさせ、教員には生徒の主体性を育むための支援方法を理解し、育む喜びを感じさせたいと考えた課題に対して、十分満足できる結果が得られたと考える。そして、これを第一歩として、さらに生徒の育みを通して教職員の自信を高め、生徒と教員、教員と教員皆が一体となり、西部地区私学 No.1 を目指していきたい。</p>
<p>アピールポイント（アイデアや工夫）</p> <p>マーチをするうえで、生徒の意見を丁寧に聞き取るなかで、生徒の主体性を育んだ。ここにはかなり時間を費やした。</p> <p>マーチにおける工夫は写真にてご紹介させていただきます。生徒たちの手作りの様子をご覧ください。</p> <div data-bbox="1605 1503 2792 1913"> </div>